

楽しい♪

“学校生活” 市立小・中学校紹介

ママライターによる糸島市の
小・中学校を紹介する情報誌です。

志摩・二丈
地区編

糸島市イメージ
キャラクター
「いとゴン」



志摩地区

- 可也小学校 P1
- 引津小学校 P2
- 桜野小学校 P3
- 志摩中学校 P4
- 姫島小学校／志摩中学校姫島分校 P5

二丈地区

- 深江小学校 P6
- 一貴山小学校 P7
- 福吉小学校 P8
- 二丈中学校 P9
- 福吉中学校 P10

学年を超えて相手を思いやる人間関係づくりを大切に



文



糸島市のシンボル、可也山が背後に控える可也小学校。天気の良い日の休み時間には、木のぼりや学校脇の上初川(籠門川)での水遊びなど、校内で自然に親しんで遊ぶ子どもの姿が見られます。学校目標では相手を思いやる人間関係づくりを最も重視。全校約500人の児童が、同級生でも異学年でも日頃からお互いの立場を理解し、認め合いや協力し合う経験を大切にしています。

学年を超えた活動に、1年生から6年生まで約20人の縦割りグループを作り、6年生がリーダーになって行う「ブロック活動」があります。毎年11月に開催される「遊楽祭(ゆうらくさい)」では、グループごとに出し物の企画と運営をします。5、6年生が出し物の進行係、1年生が受付係、2～4年生は補助をしたり、自作の

看板で呼び込みをしたりと、それぞれの役割に励む子どもたち。終わったあとは必ずグループで振り返りをして、お互いのがんばりを見つけて褒め合います。

平成29年度からは授業に「学び合い」を導入。授業の中で、子ども同士が考えを説明したり質問をしたりしながら、協力して問題に取り組み、お互いに理解と考えを深めます。「分からんところを自分のペースで友達に質問できる」「教えた友達が「解けた!」って言うとうれしくなる」と、子どもたちの学力はもちろん、相手を思いやる意識も高まっています。

さまざまな立場の子ども同士の交流や活動を通して、社会性やコミュニケーション力を学び、その上で確かな学力と体力を身に付けています。



縦割りのグループで活動する「遊楽祭(ゆうらくさい)」の様子



「学び合い」で学力と思いやりの心を育てます



地域の子どもはみんなの子ども。地域主催の行事も盛ん



文



芥屋海水浴場や弓状に砂浜が広がる幣の浜(にぎのはま)など、風光明媚(めいび)な観光地の近くに位置する、糸島市立引津小学校。全校児童は約240人と少ないですが、保護者と地域の連携が強く、地域行事が活発です。中でも、校庭に建つ土俵で行う「引津校区学童相撲大会」は、約40年前にPTA主導で始まった独自のもの。主催は、地域住民らでつくる引津青少年育成校区民会議で、練習期間中は、保護者や地域の大人が毎日見守ります。子ども時代に出場していた保護者も多い伝統行事で、応援も白熱します。

引津小学校が最も力を入れる取り組みは、コミュニケーション力の育成。「自分の言葉でつながる子」を目標に掲げています。特に、あいさつでつながる関係づくりは、教職員や保護者、地域

住民にも習慣化を呼び掛け、「あいさつ運動」期間中には、地域放送で全世帯に協力依頼する徹底ぶり。地域の人も「登下校時にあいさつしてくれる子どもが多い」と歓迎しており、「地域の子どもはみんなの子ども」という地域力の継承を後押ししているようです。

一方、子どもたちの力で地域を元気にしたいと10年以上続けているのが、4年生のゴキブリ団子作り。民生委員や福祉委員らと一緒に、玉ねぎとホウ酸を使ったゴキブリ忌避剤を5000個以上も手作りして、校区内に100人以上いる独り暮らしの高齢者宅を訪ねて手渡します。高齢者も子どもたちも、毎年楽しみにしている恒例行事です。



「引津校区学童相撲大会」は、平成30年度で37回目の伝統行事



地域住民と行う4年生の「ゴキブリ団子作り」も、毎年喜ばれる恒例行事

“地域とともに”が合言葉。地域に見守られながら育つ「桜野っ子」たち

文



全校児童約110人の桜野小学校。校区には、桜井二見ヶ浦や海岸沿いのカフェなど糸島で人気のスポットが点在しています。現在の校舎は、平成3年に竣工された比較的新しいもの。2階には、オープンスペースの図書ホールがある珍しい造りになっています。ホールの正面には「志摩のメルヘン」と名付けられた大きなステンドグラスがあります。ステンドグラスは子どもたちの大好きな場所であり、学校のシンボルとなっています。

桜野小学校の敷地には、広大な梅林があります。梅林で行われる「梅ちぎり」は子どもたちが楽しみにしている学校行事の一つです。梅林は、実習園として昭和18年に開墾したものの、近年は雑草が生い茂り、梅の収穫量も減少していました。それを見兼ねた当時のPTA会長・副会長が先頭となり、平成24年に梅林の再生計画が

始まりました。雑草の刈り込み、青空教室の設置、階段の整備など、代替わりしても思いが受け継がれ、保護者だけでなく地域の人を巻き込んだ壮大なプロジェクトとなりました。そのお陰で梅の収穫量もアップ。子どもたちだけでなく、地域の人にとっても憩いの場となり、今も愛され続けています。

少人数の学校だからこそできる「縦割りグループ活動」では、上級生が下級生を思いやる気持ちを育み、下級生は上級生に憧れと目標を持ち行動するようになります。海、山、川の自然に囲まれた場所で、学校や家族はもちろん、地域の人にも守られながら、子どもたちは素直に伸び伸びと成長しています。



「旧志摩町に住む妖精」をイメージして作られたステンドグラス



憩いの広場完成式典の時の記念撮影



敷地面積も校区面積も市内最大!心を育む活動も重視



文



糸島市内で一番大きな校区を持つ糸島市立志摩中学校。学校の敷地面積も全国平均の3倍近い約7万平方メートルで、ヤフオク!ドーム(福岡市中央区)の建築面積とほぼ同じというから驚きです。イベントホールのような開放的なランチルームもあり、伸び伸びした環境が大きな魅力ですが、教育面では細やかな取り組みも目立ちます。生徒が年に1回手弁当を持ち寄る「弁当の日」では、まず、夏休み中に教員だけによる「弁当の日」を実施。その様子をスライドショーにして生徒たちに見せることで、意欲を育むねらいがあるそうです。

心を育む活動として、全校生徒に参加を呼び掛けるボランティア部も、平成29年度から始まりました。内容は、各小学校の運動会手伝いや、小学生が公民館に寝泊まりしながら学校に通

う「通学合宿」の支援、「福岡マラソン」の準備や当日のサポート、学校裏に広がる海岸林の清掃、近くで開かれるゴルフ大会前の沿道清掃など、地域に根付いたものばかり。さまざまな人とかかわり、自分が人に喜ばれる存在であるという自己肯定感を養うことにもつながれば、という思いも込められています。

平成30年9月からは、受験を控えた3年生を対象に、自学自習を支援するための「志摩塾」も実施。毎週水曜日の放課後に2時間、志摩中学校の卒業生である大学生が学習をサポートする取り組みで、生徒の自主性が高まり、学年全体の学ぶ雰囲気が向上することが期待されています。



「福岡マラソン」当日、ランナーたちに氷を手渡しながら声援を送る生徒たち



「志摩塾」では、志摩中学校出身の大学生たちが、生徒たちの質問に答える

姫島と島の人々に生まれ、兄弟のように共に学ぶ

文



姫島には、小学生と中学生が共に学ぶ姫島小学校と志摩中学校姫島分校があります。平成30年度は、小学生4名、中学生3名が通っており、少人数の良さを生かし、小中で連携しながら勉学に励んでいます。

木のぬくもりあふれる校舎には、吹き抜けを囲んで理科室や家庭科室などが並び、1階が小学生、2階が中学生の教室となっています。月に一度、保育園児とのふれあい給食もあり、未就学児から中学生までが兄弟のように仲良く過ごしています。

姫島の小学校と中学校の特徴的な取り組みに、「小中連携教育」があります。小学生が中学校の数学の先生に算数を習うなど、専門性を生かした授業が行われ、先生たちは各学年の習熟度を見ながら、小中9年間を見通した教育を行っています。学校行事や

委員会活動は合同で行われることが多く、時には優しく、時には厳しく接してくれる上級生とその姿を慕う下級生の密なつながりにより、姫島の小中学校の伝統がしっかりと受け継がれています。

海に囲まれた姫島独自の学校行事に、中学生が漁船に乗って漁に出かける水産実習があります。また小中合同で、地元で水揚げされたアジをさばいて干物を作るアジ干し実習もあります。島の豊かな自然環境が学びの場となっています。

地域と学校のつながりも深く、学校行事でも全島行事でも島を挙げてのサポートで成り立っています。地域に支えられ開かれた学校を舞台に、子どもたちは伸び伸びと学び、育っています。



島のお年寄りを招く地域ふれあい学習で一緒にレクリエーション



子どもに教えてもらいながら先生も一緒にアジをさばく水産実習

「伝統を受け継ぎたい—」積極的な子どもたちの取り組み



文



江戸時代、唐津街道の宿場町として栄えた深江。その中心街道沿いにあるのが糸島市立深江小学校です。歴史あるこの土地で、全校約270名の児童は二つの伝統「スポコン」と「美しい歌声」を大切にしています。伝統を受け継ぐため、子どもたちは行事に積極的です。

一つ目の伝統、スポコンはスポーツコンテストの略。3分間で跳んだ回数を競う長縄大会に3年生以上が出場します。スポコンを通して得るものは体力や集中力だけではありません。友達への愛情や信頼感を育んだり、諦めずに取り組む忍耐力を養ったりと多くの学びがあります。6年生は大会の感想文で「仲間を大切に作る心を身につけることができた」「これからの人生でうまくいなくても、あきらめずに何回も挑戦していきたい」と書いて

いました。

二つ目の伝統は6年生が奏でる美しい歌声です。毎月の全校集会で合唱発表を行っており、1年生から歌う力や聴く力を養います。上級生の歌声に下級生は憧れを抱き、練習も積極的に。6年生になると、学校の代表として「糸島市小学校音楽会」に出場します。練習では気持ちを込めて歌う大切さを学んだり、声楽経験のある先生から専門的な指導を受けたりしました。完成した歌声は透き通ったハーモニーとなり、聴く人に鳥肌が立つほどの感動を与えます。6年生は「伝統の歌声を守りたい。だけど守るだけじゃなく去年よりもきれいな歌声だったと言ってもらえるように頑張ります」と頼もしく話しました。



スポコン地区大会での3年生



小学校音楽会で合唱を発表する6年生

温かく見守られすくすくと育つ 我らが地域の小学校



文



広々とした田畑に青々とした脊振の山々がどっしりと構える一貴山校区。麦秋の金、初夏の稲の緑と、田畑の農作物で季節の移ろいを感じるのどかな地域です。JR一貴山駅周辺には住宅地が広がり、利便性が高い地域でもあります。

糸島市立一貴山小学校は、1学年1クラス。お互いを下の名前と呼び合い、休み時間は学年の境なく一緒に遊びます。

大半の子どもたちは30分から1時間程度をかけて集団登校しています。雨の日も風の日もその歩調に合わせて、「いきさん見守り隊」の方々が学校まで付き添ってくれます。自分の孫のように叱ったり、ほめたりしながら接してくれる地域の方に見守られ、親も子どもも安心して過ごしています。

子どもたちのやる気につながる取り組みに、「あいさつ名人」「そうじ名人」「読書名人」など10の「一貴山小名人プロジェクト」があります。学期ごとにそれぞれ目標を立て、学期末の名人表彰を楽しみに取り組みます。「3年連続そうじ名人もった!」「毎日宿題がんばったから宿題名人!」と名人カードを持ち帰る表情は誇らしげです。

一貴山小学校は地域コミュニティの中心としても重要な役割を果たしています。運動会や文化祭は地域と合同で行います。地域の大人や保護者が準備から学校に集い、にぎわう様子を見て育つ子どもたち。地域と小学校が一体となり、子どもたちを見守る風土が根付いています。



教頭先生から10の名人が表彰される
ワクワクドキドキの瞬間



雨の日も風の日も地域の方に見守られて登校



色濃い地域性がふるさと人の愛着を育てる出発点



文



糸島市最西部に位置し、海と山の両方がある福吉校区。歴史ある伝統の福井神楽(ふくいかがら)や五穀豊穰・大漁祈願祭の福吉神幸祭(ふくよししんこうさい)など地域の伝統が根付いています。福吉小学校では「福吉を愛し、ともに生きる力を育てる」を教育目標に掲げ、福井神楽を学ぶ授業や米作り体験などを取り入れ、地域の人たちと一緒に子どもたちのふるさとへの愛着を育てています。一小一中校区を生かした小中連携のコミュニティ・スクールにも力を入れており、子どもたちは少し先の未来の姿を身近に感じながら福吉中学校の生徒と交流しています。

3年生の総合的な学習の時間に福井神楽を取り入れ、地元の福井神楽保存会の人たちがゲストティーチャーとして子どもたちに神楽の歴史や舞などを教えています。ミニ発表会に向けて、口上を練習する声が各家庭で聞かれるのも福吉校区ならではの。

小学校での授業をきっかけに神楽にどっぷりはまる子や、福井白山神社(ふくいはいくさんじんじゃ)に奉納される“本物”の福井神楽を見に行く保護者もいるようです。平成25年からの取り組みで、地域の伝統文化がしっかりと次世代へ受け継がれています。

授業の時間以外にも、地域の人とのつながりがあります。毎週水曜日の昼休みに開かれる将棋道場には、地域ボランティアの「おじちゃん」と将棋遊びや対局を楽しむ子どもたちの姿。下校時の電車を待っている間、駅の待合室で見守り活動の人と折り紙で遊ぶ姿。福吉小学校の周りではいろんな場所で地域の人たちの温かな心があふれています。



福井神楽ミニ発表会



昼休みの将棋道場

明るく伸びやかな環境で安心して学ぶ 二丈中の宝



文



「子どもたちが素直で無邪気」「穏やかですね」「廊下に(先生の)どなり声が響くことはほとんどないかな」。教師から保護者まで、異口同音に温かなイメージが語られる糸島市立二丈中学校。平成14年に建てられた校舎は、明るく広々としており、全校縦割りのグループで行う黙働自問清掃(もくどうじもんせいそう)で隅々まで磨き上げられています。

深江小学校と一貴山小学校から集まる子どもたちは全校で200名程度。子ども同士はもちろんのこと、学年を問わず生徒と先生も全員顔見知りです。学期ごとにある教育相談は担任以外の先生にも相談でき、多様な意見が聞けます。子どもたちは小規模校ならではのきめの細かい対応を受けながら、多感な時期を過ごします。

春、3年生が中庭で踊りの練習を始めたら体育祭の季節到来。沖縄の平和学習と共に取り組むエイサー演舞は、体育祭の目玉で

す。5月の本番に向けて3年生を中心に練習を重ねます。

創立70周年を記念して始まったのは、文化祭の全校合唱です。心を一つに合わせた圧巻のハーモニーが体育館に響き渡ります。文化祭を締めくくる吹奏楽部演奏では、子どもたちが音楽に合わせて踊り出す茶目っ気もあり、何事も真剣に取り組み、そして楽しんでいる姿が見られます。

「何でも相談しあえる」というPTA活動。なかでも、「二丈中おやじの会」は夏休みにナイトハイクを企画するなど活発に活動しています。男親目線ならではの真夜中の遠足を、親父の力を結集して開催します。月に1,2度の会合を重ね、「子どもに関わる最後の機会」と親父たちも十二分に楽しめます。



明るく広々とした教室でグループ学習に取り組む



日頃の感謝の気持ちを込め『ふるさと』を全校合唱



生徒一人ひとりが地域と学校の伝統をつないでいく



グラウンドの前を走るJR筑肥線の車両がいつもの風景にある系島市立福吉中学校。一小一中校区で、各学年1クラス、111名の生徒が通っています。重点目標の一つ「立礼」は、ただ挨拶をするのではなく「立ち止まって相手の顔を見て挨拶をする」「先手の挨拶を心掛ける」ことで、相手を大切に作る気持ちを育ててほしいという思いが込められています。毎朝、校長先生をはじめ、先生、生徒会役員が交代で校門に立ち、率先して挨拶をします。

福吉中学校では、地域の伝統文化の継承に力を入れており、総合的な学習の時間にそれを学ぶ授業を設けています。その一つに福井神楽(ふくいかぐら)チームがあります。このコースでは、その歴史や福井神楽保存会の役割について学習し、文化祭では舞と楽のメンバー構成で神楽の演目を披露します。舞のチームは、先輩が演じてきた神楽の映像をお手本にしたり、地元の福井神楽保存会の方々から足運びなどの所作を指導してもらったりしながら、練習に励みます。また、校区の歴史ある歌「吉井浜思

ひ出の歌」を学ぶチームもあります。これは平成10年当時の生徒たちが、埋もれていた地元の歌「吉井浜思ひ出の歌」を復活させたもので、この歌を受け継ぐことを目的としています。このように生徒たちは、地域の伝統を長年にわたり受け継いでいます。さらに、福祉チームは、創作ダンスを通して地元の福吉病院と交流を図るなど、地域の人たちとも積極的に関わっています。

一小一中校区を活かしたコミュニティ・スクールでは、福吉小学校の子どもたちと一緒に姉子の浜(あねごのはま)や福吉駅、福吉しおさい公園を清掃する小中合同ボランティアでの活動もします。さまざまな地域活動を通して、生徒たちは地域の一員としての自覚を深めるとともに郷土愛を育てています。



文化祭 福井神楽チーム



小中合同ボランティア



糸島市教育委員会
教育部 学校教育課

心配なことや不安なことがあったら、お気軽に相談してください。

糸島市教育相談室

092-324-6268



● 新しい学校への不安や学校生活に関する相談(糸島市)

24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310

● いじめ問題などの相談窓口(文部科学省)

警察相談専用電話 #9110

● 警察本部の相談窓口(警察)

子どもの人権110番 0120-007-110

● 子どもの人権問題に関する相談窓口(法務局)

こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064-556

● 厚生労働省

児童相談所全国共通ダイヤル 189

● 児童虐待などの相談窓口(児童相談所)

よりそいホットライン 0120-279-338

● 厚生労働省

※この冊子は、一般社団法人ママコラボが受託し、糸島市在住のママライターが取材と記事の作成をしました。
(ママライターとは、子育て中の保護者の視点を生かして発信するライターです。)

平成31年3月作成